

令和2年6月26日

令和元年度（平成31年度）主な事業報告

社会福祉法人 陽だまりの会

社会福祉事業

事業所名：就労継続支援B型 ハウス陽だまり

1. 事業実施日数 262日

2. 事業内容

【具体的な支援内容等】

- ①個別支援計画を作成し、各自の目標・目的・特性・スキルの把握や支援方法の組み立てをおこなった。またモニタリングを定期的実施し、振り返りをおこなった。
- ②自己決定による参加を尊重し、得意・不得意による役割分担、障害特性に応じた作業指示の出し方や参加方法、独立したスペースでの作業参加など環境にも配慮し、各自の持てる力が発揮できるよう支援した。
- ③収入に変動がある弁当販売について、前年度は売店・区役所等のみの販売で1日の食数は50食前後だったが、工賃向上を図るため利用者と共に近隣の企業へのPR活動を行い、令和元年度の1日あたりの販売食数は、70～100食に増えた。また、日々の弁当販売に加え、地域バザーの焼きそば販売は前年度の年間販売数 1,440食に対し、令和元年度は 1,900食（前年比 131.9%）を販売した。
配食事業の年間売上は、平成30年度 8,514,546円に対して、令和元年度 11,623,032円となり、前年比 136.5%の売上アップとなった。利用者は作業量が増えたことにより、体力維持・参加意欲の向上・作業スキル等を身に付けることに繋がった。
- ④施設外就労について、日々の声掛けやシフト制にしたこと、施設外就労をおこなった方への分配額を改善したことにより、前年度の参加総数 847人に対し令和元年度の参加総数は 1,594人（前年比 188.2%）となった。
- ⑤計画していた面接練習や履歴書の書き方講座等のプログラムは、担当職員の退職と利用者ニーズの見直しにより実施しなかった。計画するプログラムは特定の職員しか行えないものではなく、事業全体でおこなえるプログラムを設定しなければならないこと、利用者のニーズはよく調査する必要があることをあらためて学んだ。
- ⑥欠席が多い利用者の支援方法やニーズを見直し、本人にあった利用先への変更や通所を継続希望する方がやりがいなどを持てるように工夫した。その結果、欠席時対応の件数は減少し、逆に月に数回程度の利用だった利用者は4名ほど週3日～週5日の利用に増えた。
- ⑦参加希望の少なかった革細工のプログラムを見直し、継続して行っていたお菓子教室等に変更なども行なったが参加者が増えず、利用者から案の出ている就労に向けてのプログラムとしてペン字教室に変更となった。
- ⑧計画相談やグループホーム職員、関係機関との連携は、電話での相談やカンファレンス等の参加によって行った。
- ⑨月1回の（第一月曜日）ケース会議については、毎月実施せず、日々の職員ミーティングや業務中の情報共有などで話し合いの場を設けた。

【今後の課題】

- ①利用者の作業意欲について、利用者個々の差があり全体的な意欲向上に向けての取組みが課題となった。

②毎日利用していた利用者の通所減少や入院等により、通所総数が減少した。新規利用者の受入れを行うことで定員オーバーになる事を懸念し、新規利用者募集は行わなかったが、年間平均通所者数が20.2人で1日3名程度の受入れ余力があり、安定した運営を維持するため、新規利用者の受け入れを要する。

【主な作業内容】

- ・横浜市総合保健医療センター売店の請負／販売・陳列・接客等（施設外就労）
- ・生活支援センターの清掃の請負／生活支援センター内清掃（施設外就労）
- ・新横浜駅前清掃の請負／新横浜駅周辺の清掃（施設外就労）
- ・配食サービス（売店、企業、事業所等への弁当販売）
- ・内職作業（ボールペン組立・箱詰め、スリッパ検品、袋詰め等）
- ・地域のバザー参加／缶・ビン清掃 等

【プログラム】

・楽しく参加できるようにレクリエーションや研修を利用者が主となり企画した。日常の過ごし方や社会生活においてのマナーやルールの理解が出来るよう情報や環境の提供を行った。これにより協調性が身につき他者への配慮もできるようになり、また自らコミュニケーションが図れる様子が見られた。

・自発性や協調性を養い役割や達成感等が得られるようプログラム提供を行ったことにより、自ら準備や片付け、相手のペースに合わせる、休息する、自分の意見を言う等の行動変容がみられた。

革細工製作／ペン字／グループミーティング／音楽活動／カラオケ
創作的活動／研修やレクなど

【研修】

- ・令和元年8月14日：マナー研修
- ・令和元年8月16日：美術鑑賞研修
- ・令和元年9月11日：食事マナー研修
- ・令和元年12月25日：施設外研修

【レクリエーション】

- ・平成31年4月6日：お花見レク
- ・令和元年9月21日：ハウス陽なた主催音楽祭参加
- ・令和元年10月26日・27日・28日：法人主催 ハロウィンイベント参加

【バザー】

- ・平成31年4月21日：カーボン山さくらまつり
- ・令和元年5月21日：菊名毘沙門祭り
- ・令和元年5月19日：らくらく市バザー
- ・令和元年6月1日：ふるさとふれあいまつり
- ・令和元年9月1日：ラポール祭典2019（新規参画）
- ・令和元年10月15日：菊名ウォータープラザ
- ・令和元年10月19日：横浜市総合保健医療センター文化祭
- ・令和元年11月3日：YMCAバザー
- ・令和元年11月16日：岸根公園バザー

【避難・消防訓練】

①令和元年6月12日：避難訓練／ハウス陽だまり⇄菊名小学校
地震などの自然災害が発生した避難訓練を実施した。

【目的】利用者及び職員の安全を確保するため避難場所の確認、災害時を想定して敏速・安全に避難する事が出来るのかシミュレーションし、課題点を見つける。

②令和元年9月26日：防災訓練／横浜市民防災センター

地震などの災害が発生時、避難が必要となる場合の注意点を確認。

【目的】災害時に対応する身の安全な守り方、避難時に必要な物の確認、災害時の避難方法の模擬体験等を経験し災害時などの知識を身につける。

③令和元年3月11日：避難訓練／ハウス陽だまり⇄菊名小学校

地震などの自然災害が発生した避難訓練

【目的】利用者及び職員の安全を確保するため避難場所の確認、災害時を想定して敏速・安全に避難する事が出来るのかシミュレーションし、課題点を見つける。

→新型コロナウイルス流行のため中止。

利用者とともに、地図を用いて避難経路の確認及び備蓄品の確認を行った。

職員の離職に伴い、職員一人一人の業務量が増えたと共に工賃向上のためのプログラム業務量も増えたが、業務の組立てや役割分担の明確化、プログラムの見直し、職員の意識の向上、職員間の情報共有を密にする等により効率よく業務を行うことが出来た。

職員のワークバランスを図るための年次有給休暇に関して、計画的な消化については改善点も多くみられるが、予定通り消化することが出来た。

授産事業実績（前年比較）

	平成30年度	令和元年度	前年比
通所者総数／年	5,745人	5,289人	92.1%
通所者1日平均	22.1人	20.2人	1.9人減少
作業総時間／年	約7,220時間	約7,834時間	108.5%
授産事業売上／年	11,008,112円	14,152,525円	128.6%
工賃支払総額／年	4,006,554円	5,790,727円	144.5%
平均工賃月額	10,041円	16,646円	6,605円増加

利用者年代別（令和2年3月31日現在）

30代	40代	50代	60代	70代	合計
5名	5名	13名	6名	1名	30名

事業所名：地域活動支援センター事業精神障害者作業所型ハウス陽なた

1. 事業開所日数 236日

2. 事業内容

・憩いを中心とした居場所作り、仲間作りの場を提供しつつ、社会の一員としての公共交通機関や食事のマナーの習得やメンバー同士が親睦を深められるようなレクリエーションやイベントを開催した。メンバーからは「やりがいを持てる」「周囲に表情が穏やかになったと言われた」「通所が楽しみ」という意見があがった。また、日頃の食事のマナーが改善したり、お互いを尊重し合える様子が見られる様になった。

・利用者が通所しやすいアットホームな雰囲気作りを職員一同で心掛けた結果として、平成30年度延べ4,769人の通所者が令和元年度（平成31年度）は延べ5,783人と約1.2倍に増加した。

・登録者の年齢分布は20歳以上30歳未満が2人、30歳以上40歳未満が4人、40歳以上50歳未満が10人、50歳以上60歳未満が15人、60歳以上70歳未満が8人、70歳以上80歳未満が3人となっている。

・生活訓練として室内やトイレの清掃、洗い物や洗濯等を行い、自立に向けた支援を行った。

・生産活動の機会提供として、陽だまり焼の製造、店頭や区役所、老人ホームでの販売を行った。また自主製品として水彩画ポストカード作りを行い、製品作成の楽しさを体験した。自分が携わった製品が売れることの喜びや自信に繋がった。また、店頭での販売時にレジや接客などもメンバーに任せるようにしたところ、「自分にもできると自信がついた」「通所するのが楽しみになった」という意見があがった。

・音楽プログラムにも力をいれ、メンバーが協力して合唱、演奏していく事で一つのものをみんなで創り上げていくことを経験した。自主企画の音楽祭の開催や、イベントで合唱を行い、事業所内だけでなく、外部での活動を行っていく事で、メンバーの経験や自信に繋げるとともに、地域交流や連携の機会、社会資源に繋がっていない当事者の方が社会資源の存在を知り、利用に繋がるきっかけとなれるように活動した。

・今年度から従来の音楽療法に加え、専門家を招いてのボイストレーニングを開始した。発声法や呼吸法を学ぶなかで、「気分がすっきりする」「春と秋の音楽祭や芸術祭にて歌を発表するのが待ち遠しい」という前向きな意見があがった。

・音楽で自己表現、協調性、コミュニケーションがとれるように音楽療法士を講師に招き音楽療法のプログラムを行った。音楽療法を楽しみにしているメンバーが多く、プログラムへの参加は平成30年度延べ271人に対して令和元年度（平成31年度）は延べ396人と約1.4倍に増加した。

【課題と対策】

①本室と分室の二カ所の運営を行っていくには職員の連携が不可欠。増加した利用者に対して質の高い支援を提供するためにも業務効率の工夫と職員の能力向上を考えなければならない。

②前年度と比較して工賃が大幅に減少した。要因として請負っていた清掃作業がなくなったことと新型コロナウイルス感染防止のため移動販売が取りやめになったことが挙げられる。これらを鑑みて、社会情勢が落ち着いてきたら早急に請負作業や移動販売先の新規開拓が必要である。

③地域福祉に繋がっていない方が地域の中で自分らしく生活出来ることに繋げるため、当事者本人や家族等からの相談を受けたり、地域のイベントにおいて情報発信を行う。

【バザー、外部販売実績】

- H31.4.21(日) カーボン山さくらまつり
- R1.5.12(日) 毘沙門天バザー
- R1.5.19(日) らくらく市
- R1.6.1(土) ふるさと港北ふれあいまつり
- R.1.9.1(日) ラポール祭典
- R1.10.5(土) 菊名ウオーター祭り
- R1.10.19(土) 横浜保健医療センター文化祭
- R1.11.3(日) YMCA バザー
- R1.11.16(土) 岸根公園感謝 DAY

【レクリエーション実績】

- H31.4.2 (火) 大倉山公園花見
- R1.5.15 (水) スイーツパラダイス外食レク
- R1.6.26 (水) お好み焼き「みなと」外食レク
- R1.7.30 (火) ガーデンプランツバイキングレク
- R1.10.29 (火) 「餉餉」外食レク
- R1.12.11 (水) クリスマス会

【主催イベント、外部演奏実績】

○R1.9.14 (土) 菊名神社例大祭【外部演奏】

○R1.9.21 (土) 陽だまり芸術祭【主催イベント】

【防災訓練実績】 ○R1.12.11(木) 避難訓練(水害)、消火訓練

月	・ミーティング・室内清掃・買い出し ・陽だまり焼き製造販売・内職作業	・陽だまり焼き製造販売・内職作業 ・移動販売・ミーティング
火	・ミーティング・室内清掃 ・陽だまり焼き製造販売・内職作業	・陽だまり焼き製造販売・内職作業 ・カラオケ・童話の会販売(第3) ・ミーティング
水	・ミーティング・室内清掃 ・陽だまり焼き製造販売・内職作業	・陽だまり焼き製造販売・内職作業 ・音楽療法・ミーティング
木	・ミーティング・室内清掃 ・陽だまり焼き製造販売・内職作業	・陽だまり焼き製造販売・内職作業 ・ミーティング・水彩画教室(月2回) ・ボイストレーニング(月2回)
金	・ミーティング・室内清掃・ニコニコ販売 ・陽だまり焼き製造販売・内職作業	・陽だまり焼き製造販売・内職作業 ・音楽活動・ミーティング

事業所名：グループホームハイム木もれ陽

1. 基本運営(援助体制) 365日運営

夜間支援体制 ハイム木もれ陽(Ⅲ)あり / ハイム陽気(Ⅰ)あり

利用定員数 20名

ハイム木もれ陽8名 サテライト住居S1 1名

ハイム陽気 10名 サテライト住居S2 1名 現在入居者19名

2. 直接支援実績

①各利用者の個別支援計画を作成し、利用者毎に必要な個別支援を提供した。計画は最低でも4か月に1度、モニタリング(見直し)を行った。

②利用者一人ひとりの希望や状況をふまえ、食事提供、洗濯・整理整頓・清掃の支援、関係機関との連携、金銭管理支援、対人関係調整、相談援助、服薬管理支援、通院同行、買物同行等を実施した。

③夕食は、品目数は10品目以上、肉・魚類は100g前後を目安に、主食・主菜・副菜・汁物・果物・ヨーグルトを揃え、提供した。糖尿病により食事制限がある利用者の食事については、医師・管理栄養士と連携し、提供量の調整を行った。また嚥下困難・食事中の咳き込みがある利用者に対しては食材にとろみをつける・食事中の見守り・声掛け等の支援を行った。

④毎日、施設内外の清掃を行い、清潔な住環境の提供に努めた。また業務の隙間時間や年末に時間を取って、普段の清掃ルーチンに入っていない箇所の清掃を実施した。2週間に1回、利用者の居室に訪問支援を行い、清掃・整理に関する助言・サポートを行った。

⑤必要に応じて、契約上のルール、頓服薬の使用方法、体重管理に必要な運動目標等について単独での把握が難しい利用者に対し、時間・量・回数などの具体的な枠組みを本人や関係機関との確認のもと作成し、書面にして通知した。

⑥サテライト施設を運営し、今年度は3名の利用者中、1名が単身生活へ移行した。1名は現在も一人暮らしを目標に生活を継続中。もう1名は単身生活可能との見立てだったが、退去願を提出後、期日までに物件が見つからず、一旦、実家へ戻った。3名中1名は外部募集

による利用者だった。

⑦土日にティータイムを実施した。当日シフトが入っている職員と利用者のコミュニケーションの場となった。一方、事業計画策定時に想定していた、職員・利用者間の関係構築のため、普段土日出勤でない職員も月一回程度、勤務としてティータイムに参加できる機会を設ける試みは、管理者による調整が滞り、実行できなかった。レクリエーションは利用者より希望を募り、クリスマスパーティーの開催、すたみな太郎への外食レクを実施した。

⑧事業計画策定時に計画していた日中活動先事業所へのグループホーム職員の見学は、グループホーム管理者による調整が滞り、実行できなかった。

⑨利用者の精神科受診への同行は木もれ陽で4名、陽気で3名実施した。同行はしなかったが、書面で連携した利用者は木もれ陽で3名、陽気で4名だった。

⑩特定検診受診は木もれ陽で1名、陽気で2名をサポートした。他の利用者は自身で受けた人、年齢的に特定検診の対象ではない人、希望しなかった人、など。引き続き、健康維持のための検診の重要性を周知し、希望者には支援を提供していく。

⑪体重増加の対応については、対象の利用者を区役所の保健師と繋ぎ、食生活の振り返りをおこなった。少しずつ知識を得て自分の健康を考えた食材を購入できるようになりつつあり、また運動量も増えてきている。体重について短期的な目標と長期的な目標の双方を決め、支援を継続している。

⑫防災面の強化について、災害時の医療提供体制について情報収集をした。また、震災災害技術展に行き、企業ブースの訪問やセミナーへの参加を通じて、情報収集を行った。

【間接支援実績】

⑬令和2年1月より毎月、職員ミーティングを実施し、業務の進め方の情報交換、利用者の様子の共有、今後の支援や事業所運営に関する意見の集約を行った。ミーティングは参加できる職員が最も多い日に行い、参加できなかった職員はミーティング記録で内容が確認できるようにした。

⑭過去の研修資料や業務指示、作成済みの業務マニュアルをまとめたフォルダを作成し、確認を容易にした。各曜日の業務リストを作成、職員から意見を聴取して、適宜、曜日ごとの業務配分を見直した。書類整理、電子ファイル整理は少しずつ進めたが、更に進めていく必要を感じている。

⑮防犯・防災・避難訓練を実施した。不審者侵入時の対応および水害、地震、火災発生時の対応を確認。職員不在時に火災が起きた際の対応については通報担当の利用者を一名決め、訓練を行った。10月時は町内会主催の地域の防災訓練にも参加した。災害時に備えた予備薬については10月の台風時に各利用者に声掛けし、1週間分程度の予備の薬の処方を受けてもらった。ただし、今後も薬の状況について適宜確認が必要と思われる。

⑯各職員が研修に参加し、研修報告書を通じて知識の共有を行った。また、感染基礎研修に参加した職員が利用者嘔吐時の消毒セットとマニュアルの準備を行った。

⑰退去者が出た際は都度、利用者募集を行った。空室期間の合計は119日で、予算作成時の予定であった180日(3ヵ月×2部屋)を下回った。見学は依頼があった際はすべて受け入れた。説明用の資料を作成し、グループホームの利用目的、一日の生活のイメージ、サービスの内容、料金設定、入居のための条件を都度、説明した。

⑱入院日数の合計は204日で、予算作成時の予定であった180日(3ヵ月×2名)を上回った。引き続き、普段の見守り・声掛けから利用者の体調の状況を把握し、悪化の兆候があった場合は速やかに対処することで、入院日数を減らしていく必要がある。一方で年末近くの外来通院が出来なくなるタイミングで体調を崩した利用者が、更なる悪化を防ぐために入院したケースもある。

⑲今年度の退職者は6名で、前年度の14名より減らすことができた。マッチングが悪かつ

た場合の速やかなシフト調整、面接におけるスクリーニングが上手く行ったこと、職員ミーティングの実施が背景にあると思われる。職員指導についてはマニュアルの整備を更に進め、また業務効率化によって新人指導にあたる時間をより増やす必要がある。

(ハイム木もれ陽)

【防災・避難訓練（1回目）】

目的：ハイム木もれ陽において地震や、浸水の危険がある場合の避難の方法、火災時の避難方法及び通報の手順、初期消火の方法を確認するため、訓練を行う。また地域の防災訓練に参加する。

日付：令和元年10月27日（日曜日）

時間：8：00～10：30

場所：ハイム木もれ陽共有スペース→菊名小学校

参加：利用者8名、職員2名

(ハイム陽気)

【防災・避難訓練（1回目）】

目的：災害時の避難や火災時の避難方法及びその予防として、避難経路や災害備蓄品の確認、初期消火、通報等の訓練を行う。

日付：令和元年5月13日（月曜日）

時間：15：00～16：00

場所：ハイム陽気共有スペース→大豆戸小学校

参加：利用者8名、職員6名

【防災・避難訓練（2回目）】

目的：災害時の避難や火災時の避難方法及びその予防として、避難経路や災害備蓄品の確認、初期消火、通報等の訓練を行う。

日付：令和元年11月25日（月曜日）

時間：15：00～16：45

場所：ハイム陽気共有スペース→大豆戸小学校

参加：利用者9名、職員4名

【レクリエーション】

(ハイム木もれ陽)

- ・令和元年7月27日 ケーキ提供
- ・令和元年12月24日 クリスマス会
- ・令和元年2月22日 外食レク すたみな太郎

(ハイム陽気)

- ・令和元年9月18日 外食レク 築地食堂 源ちゃん新横浜店

【その他】

(ハイム木もれ陽)

- ・令和元年6月10日 消防用設備等点検
- ・令和元年12月16日 消防用設備等点検

(ハイム陽気)

- ・令和元年6月10日 消防用設備等点検
- ・令和元年12月16日 消防用設備等点検

【利用者年齢層】 ※（ ）内は退去者

<ハイム木もれ陽>

30代：1名 50代：2名 60代：2名 70代：3名

<ハイム木もれ陽 S1>

40代：1名

<ハイム木もれ陽 S2>

(30代：1名 50代：1名)

<ハイム陽気>

40代：2名 50代：3名 60代：4名 70代：1名

【課題と対策】

①事務作業の業務引継ぎ

課題：管理者の自身の業務管理に難があり、職員指導にあたる時間を確保できていない。

対策：下記を実践し、業務の引継ぎと職員指導を同時に行う。

- ・実際に業務を他職員に任せる中で、職員指導（OJT）を行う。
- 非常勤職員には、まず日報の支援ソフトへの打ち込み、献立・月初準備書類（当番表、安全管理確認表、他）作成の非常勤職員への引継ぎを実施。
- 常勤職員には、毎月のルーチンとなる事務作業（給料計算等）の引継ぎを実施。
- ・引継ぎをする業務については簡易的な引継ぎ書類を作成する。引継ぎ書類については保管しておき、後ほどマニュアル作成に援用する。
- ・引継ぎの際は必ず、メモを取ってもらい、また実際に仕事の一部を任せる。
- ・業務を管理者にしかできない仕事、常勤にしかできない仕事、全職員ができる仕事に分類し、目的とやり方を説明した上で積極的に業務を各職員に振る。

②書類の整理

課題：保管書類の量が多く、職場のスペースを圧迫している。

対策：7月後半に書類整理を行う。年度・種類毎にすべての書類を整理し、廃棄していいものとそうでないものに分ける。実地指導での確認を終えた資料は紐で綴り、保管期間が過ぎたらすぐ廃棄できるよう準備する。

③防災面の強化

課題：震災災害技術展で得た情報について、新型コロナウイルス対策等により、分析・防災計画への反映が保留となっている。

対策：会議環境が整い次第、技術展で得た情報を元に防災計画の見直し、必要な設備投資について検討を行う。

事業所名：グループホームハイム陽春

基本運営（援助体制） 365日運営

夜間支援体制 ハイム陽春第一 あり / ハイム陽春第二 なし

【利用者の年齢層】

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
—	1名	2名	4名(1名)	2名	3名(1名)	2名

【具体的な支援内容】

①グループホーム(共同生活)での生活を通して、社会生活に必要な周囲への気配りや配慮等が経験できる機会を提供した。

②利用者の自らの意思が反映された日常生活や社会生活を送ることができるように意思決定のサポートを行った。

一人暮らし等の自立に向けた退去は2名だった。日中活動のステップアップは、就労継続B型から就労に1名、作業所から就労継続A型に1名、作業所から就労継続B型に1名、新規利用で日中活動先無しから作業所に1名、新規利用で日中活動先無しからデイケア

に1名で、合計5名だった。

③利用者のニーズや課題を抽出した個別支援計画書やサービス等利用計画を作成し、4か月に1回のモニタリングや日頃の振り返りをおこない、利用者支援をおこなった。また訪問看護や医療機関などの外部機関と連絡調整等の連携を取りながら、自分らしく地域生活を送ることに向けて支援を行なった。

④防犯設備や防犯訓練等をおこない、体調悪化時の危機介入(クライシスプラン)等に対応できるように体制等を整えた。それにより利用者が安心して地域生活を送ることや、職員が安心して仕事ができるよう改善を図った。

⑤ヒヤリハット対策を強化し、事故等を未然に防止するための体制を整えた。具体的に毎日の職員間の打ち合わせや定期的な職員会議での情報共有や事例検討の実施、危機管理委員会の設置準備といった対策を行った。労働災害(施設内清掃中に転倒し怪我)が1件あった。

⑥利用者が地域の中で安定した生活を送れるよう、利用者の日々の健康状態や睡眠状況、表情といった、きめ細やかな見守り、計画相談等の外部機関との情報共有等の充実を図り、危機的状況を回避するための体制を整えた。体調悪化に伴う短期の休息入院が1件あった。

⑦一人暮らしのために自分で出来ることは自分で行うといった自主性や、共同生活における周囲への気配りといった協調性等の強みを伸ばすための声掛けを大切に、自立に向けた自信や意欲を高めるようなアプローチを行った。

⑧就労や日中活動へ毎日通うことが困難な場合には、日中支援を通して利用者の意欲向上、体調の安定化、生活習慣の適正化等を目指した支援を展開した。日中支援延べ605人(一日当たり2.5人)に提供。

⑨準24時間体制と必要な利用者起床支援、食事提供支援、服薬管理、金銭管理、日中支援、夜間支援等を提供した。

⑩定期的な職員会議や研修の機会を設け、支援の質の向上および権利侵害や虐待の防止に努めた。職員会議10回、法人内研修・グループスーパービジョン5回、外部研修5回。

⑪災害及び緊急事態等に適切な対応を行なえるよう、消防訓練及び避難訓練を年2回以上実施するとともに、災害備蓄品などの管理・点検を行った。台風19号による緊急避難を実施した。

⑫安定した運営に結びつける為に、利用者の退去があった場合は、迅速な入居募集の案内を行なった。

【課題】

①今後も安定した事業展開や事業継続のため、これまで培ってきた経験やノウハウをマニュアル化し、人材育成や法人全体のレベルアップをさらに加速させていきたい。

②サービス開始前の利用者について、区役所や病院が行う、対象者の障害の度合いや能力の審査が的確になされておらず、その利用者の状態に見合った支援や体制が不十分な中でサービスを提供せざるおえないケースがあった。サービス利用開始前において、事前に利用者の情報収集やアセスメントを積極的且つ高い精度で行い、その利用者の状態にマッチした支援体制を整えることや審査段階からの関りも視野に入れながら、利用者が安心してサービス開始を迎えられるようにつなげていきたい。

③利用者の意思決定については、次年度以降に自立退去や就労といったステップアップに向けて準備を進めている利用者もいるので、一人ひとりのニーズや目標に沿った支援ができるように職員のレベルアップ、サービスの質の向上を加速させたい。

④ヒヤリハット対策については、危機管理委員会の実施等を通じて、今後さらに対策や危機意識の強化を講じていく。

⑤利用者支援については、利用者からのSOSの察知、環境調整等の対応を素早く行っていきたい。利用者の高齢化や、就労や日中活動へ毎日通うことが困難等のニーズに沿った支援

を提供するためにも、「日中支援型グループホーム」の新規事業展開の検討を進めていく。
⑥災害及び緊急事態等に適切な対応を行なうために、利用者のみを想定した災害時の避難行動や対策についても、消防署等の協力を得ながら整備していく。

【防災避難訓練】

目的：災害発生時及び災害発生時並びに洪水発生時の避難対応及び初期消火を知る

日付：令和元年 9月12日（水曜日）

時間：14：00～15：30

場所：ハイム陽春共有スペース 1階→城郷中学校

参加：利用者9名、職員5名

【防災避難訓練】

目的：鶴見川決壊時の対応方法及び災害発生時並びに災害発生時の避難対応及び初期消火を知る

日付：令和2年 3月26日（木曜日）

時間：13：00～13：30

場所：ハイム陽春共有スペース 1階

参加：職員3名

※新型コロナウイルス感染防止対策で「3つの密」を避ける形で実施

【職員防犯訓練】

目的：不審者侵入時の緊急対応方法の実践

日付：令和2年 3月26日（木曜日）

時間：12:30～13:00

場所：ハイム陽春共有スペース 1階

参加：職員3名

【レクリエーション】

- ・令和元年7月26日 小机大堀町内会納涼盆踊り
- ・令和元年12月22日 クリスマス会

【その他】

- ・平成31年 4月25日 害虫駆除点検
- ・令和元年 5月 7日 消防用設備点検
- ・令和元年 6月20日 害虫駆除点検
- ・令和元年 8月 職員健康診断
- ・令和元年 8月15日 害虫駆除点検
- ・令和元年10月10日 害虫駆除点検
- ・令和元年11月 1日 消防用設備点検
- ・令和元年11月19日 建築設備定期検査報告
- ・年末年始 年越しそば、正月料理の提供
- ・令和元年12月 5日 害虫駆除点検
- ・令和2年 1月30日 害虫駆除点検
- ・令和2年 3月26日 害虫駆除点検
- ・令和2年 3月 夜間従事者健康診断

事業所名：グループホームハイムあさ陽

基本運営（援助体制） 365日運営

夜間支援体制 ハイムあさ陽第一 あり / ハイムあさ陽第二 あり

【計画に対する具体的な支援内容】

①退去者は自立に向けたサテライト利用の1名

アルコール依存症の方の飲酒等によるトラブルで契約解除1名

入居者は1年以上の長期入院の方を1名、他法人のグループホーム退去者1名、他1名の受け入れをおこなった。

②第三者評価（令和元年10月8日訪問調査）を受診した。法人の理念や方針、実際におこなっている活動や支援は職員によって解釈が違うということなどに気がついた。またマニュアル作成などの今後取り組むべきことを考える良い機会になった。

③4か月に1回の個別支援計画とモニタリングをおこなった。利用者のニーズを的確に把握するため支援ソフト「ほのぼの」を活用しアセスメントをおこない、全職員が一定水準で利用者支援がおこなえるように構造化・仕組化されたわかりやすい個別支援計画を作成した。例えば、支援内容を「居室確認」「声掛け」「見守り」「服薬管理」「相談援助」「金銭管理」「相談援助」「その他」に分類し、曜日ごとにスケジュール表にまとめて、その日におこなう支援をわかりやすくした。

④職員へのスーパービジョンは出来ていない。何か問題等が起きた際に、職員に考えてもらう前に自分ですぐに情報収集と分析をおこない、すぐに指示命令を出してしまう傾向にある。反射的にOODAをおこなってしまう習慣があり、それで良い場面もあるが、人材育成には向いていないと反省している。

⑤事業所内の役割分担は「直接支援」「間接支援」に分けて職員それぞれの得意な部分を生かし、お互いに連携し合うことが出来ている。年度途中で直接支援の中心となる職員が異動し、今後の安定した業務継続のために新規職員の定着と育成を実行している。

⑥10件以上のヒヤリハット事例を作成した。その経験により新型コロナウイルスの対応は、早くにリスクを想定して、その時に考え得るベストな対策と法人の理念方針を照らし合わせ具体的指示を出せた。ヒヤリハットから得られるスキルや習慣などが実際に役に立つことを実感した。

⑦食事提供（新型コロナの影響を考慮し3月を除く）

利用者延べ日数 4,476 日、食事提供人数 4,033 食、食事提供率 90.1%

夕食は利用者の希望により提供しており、「食べる」「食べない」は自由の中で提供率 90%は「食を通じた支援」を必要としている利用者が多いということが分かった。

金銭管理の支援は区社協の安心サービスに繋がるまでの2名に実施

安否確認と夜間支援は毎日実施

日中支援（新型コロナの影響を考慮し3月を除く）

平成30年度 428名、令和元年度 504名、前年比 117.8%

利用者の障害特性により変動するので、数値比較の捉え方は難しい。

平成30年度は3月を除く延べ日数が4,471日となり、その内9.5%が日中活動先を休む。

令和元年度は利用者延べ日数4,476人の内、11.2%は体調不良など日中活動を休むということから、10%前後は体調不良や気分など何らかの理由で日中活動先を休むという傾向が見えてきた。

【課題と対策】

①上記にあるとおり、管理者はスーパービジョンをおこなうことが苦手で、個人的には克服する必要がある。しかし苦手克服には時間がかかることから、現在おこなっている法人内のグループスーパービジョン研修を有効に活用することが現実的と考える。今後は新型コロナウイルス対策の新しい生活様式を用いながら、法人内でのグループスーパービジョン研修を再開し、職員が参加できるようにしていく。

年齢別利用者数

20代	30代	40代	50代	60代	合計
1名	2名	4名(2名)	3名	4名	14名(2名)

()は退去者の年齢

【火災・震災・洪水避難訓練】

目的：洪水・地震発生時の避難対応及び火災発生時の対応及び初期消火を知る。

日付：令和元年9月6日

時間：17：00～18：00

場所：ハイムあさ陽共有スペース1階→下末吉小学校

参加：利用者12名、職員2名

【台風・火災・洪水避難訓練】

目的：大型の台風に備えた避難経路の確認。

日付：令和元年10月10日

時間：17：00～18：00

場所：ハイムあさ陽共有スペース→下末吉小学校

参加：利用者11名、職員2名

【大型台風に伴う避難実施】

目的：大型台風による被害抑止・利用者の安全確保の為、避難所へ避難する。

日付：令和元年10月12日～10月13日

時間：8：00～翌6：30

場所：ハイムあさ陽→下末吉小学校

避難人数：利用者13名（入院中の利用者1名を除く）、職員2名

【火災・震災・洪水避難訓練】

目的：洪水・地震発生時の避難対応及び火災発生時の対応及び初期消火を知る。

日付：令和元年12月20日

時間：17：00～18：00

場所：ハイムあさ陽共有スペース1階→下末吉小学校

参加：利用者14名、職員3名

【レクリエーション】

・令和元年12月20日 食事レク（バーミヤン北寺尾店）

【その他】

- ・平成31年 4月23日 害虫駆除
- ・令和元年 6月19日 害虫駆除
- ・令和元年 6月28日 消防用設備等点検
- ・令和元年 8月16日 害虫駆除
- ・令和元年 8月・9月 職員健康診断
- ・令和元年 10月11日 害虫駆除
- ・令和元年 12月4日 害虫駆除
- ・令和元年 12月 消防用設備等点検
- ・令和2年 1月29日 害虫駆除

事業所名：指定特定相談支援事業所 横浜精神保健福祉士事務所

1. 事業運営 月・火・水・木・金 9：00～17：00（土日祝日休み）

2. 事業内容

利用者数	前年度末	新規	契約終了	合計
	66名	52名	8名	110名
実績数	利用支援		継続支援	合計
	119件		515件	634件

○計画相談支援について

・障害福祉サービス等の訪問によるサービス提供状況の確認、関係機関との日常的な電話やメールのやりとり、担当者会議の実施により利用者の状態や支援方針の共有を行った。

○職員について

- ・6月1日より相談支援専門員2名とも専従とし、職員体制を拡充した。
- ・7月11日付で事務員1名が退職。人員の補充はせず、福祉サービスの違いによる手当の不平等性を改善する為、また職員の賃金見直しの観点から法人独自で相談支援専門員に対し、サービス提供実績に応じた特別手当の給付を開始した。
- ・港北区自立支援協議会 相談部会の部会長を務め、支援員としてのスキルアップ、地域課題の抽出等ソーシャルワーク活動へ携わった。

同協議会 精神分科会へ参画し、港北区在住の長期入院患者の情報収集やケース検討を行ない、福祉・医療機関間の意見交換の場を構築した。

○利用者について

- ・年齢層は20代10名、30代21名、40代29名、50代32名、60代18名、70代8名であった。65歳以上の方も一定数おり、今年度は1名の方が障害福祉サービスから介護保険へ移行された為、計画相談についてもケアマネージャーへの引継ぎを行なった。
- ・新規契約者数は令和元年度52名、平成30年度33名、前年比157.6%増。利用者数は令和元年度110名、平成30年度66名、前年比166.7%増であった。

○その他

- ・11月28日に横浜市の実地指導を受けた。（紙面による改善指導無し）
- ・支援ソフトによる請求及びケース記録機能の活用を開始した。
- ・ホームページによる相談の問い合わせや、法人内の事業所見学の希望について一部窓口となり対応した。

【実績と課題】

・相談支援専門員一人当たりのサービス提供数について、月平均27件の計画へ対し実績は26.4件であった。目標達成出来なかった要因として、新規利用者の受け入れタイミングが偏った事で調整に時間を取られてしまうという課題があった。対策として年間通した新規利用者の受け入れ件数の一覧表を作成。現在区役所とも共有出来ており、今後計画的に新規利用者を増やしていける見込みとなっている。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のための対応について

横浜市からの通知を受け、3月のサービスについては利用者や関係機関へ説明を行なったうえで不要不急の訪問や会議を延期し、電話や書面等での対応を行なった。

公益事業

実施していない

収益事業

実施していない